

授業科目名： 代数学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 南郷 毅 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ 線形代数学の基本事項のうち、行列、連立方程式、行列式をテーマとし、行列の取り扱いを習得しながら計算できるようにするために、連立方程式や行列式に関する諸概念を理解する。			
授業の概要 授業の前半は、行列の基本的な取り扱い方を学び、連立 1 次方程式を行列で表現しその解法を考察していく。授業の後半は、行列式を定義しその基本的な性質について学習しクラメルの公式を導出することを目指す。			
授業計画 第 1 回 集合、写像の基本事項 第 2 回 行列と数ベクトル 第 3 回 行列の演算 第 4 回 行列の分割 第 5 回 行列と連立 1 次方程式 第 6 回 基本変形 第 7 回 簡約な行列 第 8 回 連立 1 次方程式を解く 第 9 回 正則行列 第 10 回 第 9 回までのまとめと演習 第 11 回 置換 第 12 回 行列式の定義と性質 第 13 回 行列式の性質 第 14 回 余因子行列とクラメルの公式 第 15 回 特別な形の行列式			
テキスト 入門線形代数（三宅敏恒著、培風館）			
参考書・参考資料等 線形代数学初歩からジョルダン標準形へ（三宅敏恒著、培風館）			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 南郷 毅 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ 線形代数学の基本事項のうち、ベクトル空間と線形写像をテーマとする。ベクトル空間，線形写像，固有値，固有ベクトルなどの基本的な性質を理解し，これらの取り扱いに習熟する。			
授業の概要 授業の前半は，代数学Ⅰの学習内容を確認したのち，ベクトル空間に関係する概念を導入し考察していく。授業の中盤以降は，線形写像と関係する概念を導入し，固有値や固有ベクトルについて考察する。抽象的な議論が続くため，理解を深めることを目的としたまとめと演習の時間を設定する。			
授業計画 第1回 行列に関する学習事項の確認 第2回 ベクトル空間 第3回 1次独立と1次従属 第4回 ベクトルの1次独立な最大個数 第5回 ベクトル空間の基と次元 第6回 第5回までのまとめと演習 第7回 線形写像 第8回 線形写像の表現行列 第9回 固有値と固有ベクトル 第10回 行列の対角化 第11回 第10回までのまとめと演習 第12回 内積 第13回 正規直行基と直行行列 第14回 対称行列の対角化 第15回 2次形式			
テキスト 入門線形代数（三宅敏恒著，培風館）			
参考書・参考資料等 線形代数学初歩からジョルダン標準形へ（三宅敏恒著，培風館）			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 幾何学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ 集合論で用いられる記法の意味を理解し、正しく扱えるようにする。また、無限集合に関する話題に興味を持ち、基本的な証明ができるようにする。			
授業の概要 現代数学（代数、幾何、解析）は、集合と呼ばれる概念を用いて記述される。本講義では、高校との接続を考え、集合論の基礎的な知識を講義する。初めに、数学の記号に慣れるために集合論で用いられる記法の解説を行い、無限集合に慣れ、集合演算に取り組めるようにする。			
授業計画 第1回 論理記号 第2回 集合の表し方 第3回 集合、冪集合 第4回 有限集合間の関係 第5回 濃度（無限集合）、可算集合、非可算集合 第6回 濃度の演算 第7回 第6回までの講義の復習（集合演算、濃度の演習） 第8回 順序集合 第9回 整列集合 第10回 順序数 第11回 基数 第12回 選択公理とツォルンの補題 第13回 選択公理と数学 第14回 連続体仮説 第15回 これまでの講義の復習（順序集合）			
テキスト 手を動かして学ぶ集合と位相，藤岡敦，裳華房，ISBN: 978-4-7853-1587-0			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で資料を，適宜配布する。			
学生に対する評価 1．授業における活動と発表への取り組み：50% 2．振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ 距離空間、位相空間論を通して、数学的に厳密な論証能力を養う。また具体例を通して簡単な演習問題を解けるようにする。			
授業の概要 大学数学（特に微分、位相幾何学）を学ぶ上で、必要不可欠な位相空間論の初歩を学ぶ。他の科目と違い抽象度の高い分野であるが、なるべく具体例を取り込みながら解説する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション（授業概略） 第2回 幾何学Ⅰの復習1（集合の概念と演算） 第3回 幾何学Ⅰの復習2（写像の概念、単射・全射と同値） 第4回 幾何学Ⅰの復習3（集合の濃度、定義と濃度の大小） 第5回 ユークリッド空間の開集合・閉集合と連続写像、開（閉）集合の定義 第6回 ユークリッド空間の開集合・閉集合と連続写像、写像の連続性 第7回 距離空間、定義 第8回 距離空間、例 第9回 距離空間、距離空間で特に成り立つ性質 第10回 位相空間、導入 第11回 位相空間、位相空間と連続写像 第12回 位相空間、連結性の定義 第13回 位相空間、コンパクトの概念 第14回 位相空間と距離空間、分離公理 第15回 まとめ			
テキスト 手を動かして学ぶ集合と位相、藤岡敦、裳華房、2020年8月、ISBN: 978-4-7853-1587-0			
参考書・参考資料等 集合と位相空間、森田茂之、朝倉書店、2002年6月、ISBN: 978-4-254-11588-8			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 曲面論・多様体論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ 平面および空間における曲線の曲がり方を表す曲率と，空間における曲面の曲がり方を表すガウス曲率，平均曲率，主曲率を理解する。また多様体と呼ばれる幾何学的な対象に一般化できることを理解する。			
授業の概要 古典的なユークリッド空間内の曲面の基本事項を身につける。また現代の微分幾何学を学ぶために必要な多様体の概念の習得を行う。			
授業計画 第1回 ユークリッド空間， 線形代数・微積分に関する復習 第2回 曲線の表し方（パラメータ表示） 第3回 曲線の曲率計算 第4回 曲線論の基本定理 第5回 閉曲線 第6回 曲面の表し方（パラメータ表示） 第7回 座標曲面の基本的な計算 第8回 曲面論の基本定理 第9回 座標曲面の曲率計算 第10回 測地線（曲面についての） 第11回 曲面のパラメータ変換 第12回 長さ・面積・体積 第13回 多様体とは 第14回 具体例（球面や射影空間） 第15回 大域的ガウス・ボンネの定理と多様体論			
テキスト 曲線と曲面の微分幾何，小林昭七，裳華房，1977年8月，ISBN: 978-4-7853-1091-2			
参考書・参考資料等 具体例から学ぶ多様体，藤岡敦，裳華房，2017年3月，ISBN: 978-4-7853-1571-9			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 解析学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業の到達目標及びテーマ 複素数の性質を知り，実数上の関数の微積分との違いを理解して簡単な複素関数の計算ができるようになる。 にする。			
授業の概要 複素数を変数にもつ関数を扱い，実数上の微積分との相違を述べながら複素関数自身が持つ美しい性質（定理）を紹介する。複素関数の理論が，実関数の理論へ豊かな話題を与えることを理解する。			
授業計画 第1回 複素数とは 第2回 複素平面，極形式，ドモアブルの定理 第3回 複素関数，連続性，正則性 第4回 複素関数（一次分数関数） 第5回 複素関数（指数関数） 第6回 複素関数（対数関数），主値 第7回 第6回までの講義の復習（様々な複素関数） 第8回 複素関数の微分 第9回 コーシーリーマンの関係式 第10回 複素積分 第11回 コーシーの積分定理 第12回 コーシーの積分公式 第13回 留数定理 第14回 実関数への応用 第15回 これまでの講義と復習			
テキスト 複素関数論の基礎，山本直樹，裳華房，2015 年 11 月，ISBN: 978-4-7853-1565-8			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で資料を，適宜配布する。			
学生に対する評価 1．授業における活動と発表への取り組み：50% 2．振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 解析学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業の到達目標及びテーマ 高等学校，大学の初年度で学んだリーマン積分を復習し，ルベーグ積分がリーマン積分よりも広い意味で積分が実行できることを理解する。			
授業の概要 微積分学で学んだリーマン積分を復習し，ルベーグ積分を定義する。ルベーグ積分のもつ有用性（収束定理など）を学び，使えるようになることを目指す。			
授業計画 第1回 実数の集合の上限と下限 第2回 実数の上極限と下極限 第3回 リーマン積分の定義と復習 第4回 完全加法族 第5回 外測度 第6回 測度（ボレル測度） 第7回 ルベーグ測度 第8回 零集合 第9回 可測関数 第10回 ルベーグ積分の定義 第11回 ルベーグ積分の性質 第12回 ルベーグの収束定理 第13回 ルベーグ積分とリーマン積分の関係性 第14回 ルベーグ積分の有用性（具体的な例に対して） 第15回 これまでのまとめと展望			
テキスト ルベーグ積分講義—ルベーグ積分と面積0の不思議な図形たち，新井仁之，日本評論社，2003年1月，ISBN: 978-4535783744			
参考書・参考資料等 ルベーグ積分と関数解析，谷島健二，朝倉書店，2002年7月，ISBN: 978-4-254-11593-2			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 微分積分学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 横 弥直浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業の到達目標及びテーマ 高等学校で学習した極限や連続性について学び直しながら，ものごとの変化を捉え，データの解析をするときや将来を予測するときの有効性を実感し，微分・積分法について理解することができる。 1．微分・積分の定義を理解し，計算により求めることができる。 2．微分・積分を応用して考えることができ，テーラーの定理や面積・体積等を求めることができる。 3．2変数関数に発展してその微分積分を理解することができる。			
授業の概要 高等学校で学んだ微分積分法を関数の極限や関数の連続性から概念を学びなおし，微分をあらためて定義し，積分の考え方や定積分の定義，活用のしかたを学ぶ。微分積分学は，ものごとの変化を捉えるために生み出された数学の分野であるため，将来の予測や得られたデータの解析に最も有効な道具となることを理解できるようにする。			
授業計画 第1回 授業の内容と方法に関するオリエンテーション（高等学校での学習の確認） 第2回 極限を考えるⅠ（数列の極限，無限級数） 第3回 極限を考えるⅡ（関数の極限，関数の連続性） 第4回 微分法Ⅰ（微分係数と導関数，微分可能と連続，積・商の微分法） 第5回 微分法Ⅱ（合成関数，逆関数の微分法，いろいろな関数の微分法） 第6回 微分法の応用Ⅰ（曲線の接線，不等式の証明，速度・加速度） 第7回 微分法の応用Ⅱ（テーラーの定理） 第8回 微分方程式（身の回りの現象と微分方程式） 第9回 2変数関数の微分（偏微分） 第10回 積分法Ⅰ（微分と積分の関係，区分求積法から積分へ，定積分の定義） 第11回 積分法Ⅱ（不定積分，置換積分法） 第12回 積分法Ⅲ（部分積分法，不等式の証明） 第13回 積分法の応用（面積・体積・曲線の長さ） 第14回 2変数関数の積分（重積分） 第15回 微分・積分とは何か（微分積分学を振り返って，グループワーク）			
テキスト 市原一裕著，数研講座シリーズ大学教養 微分積分の基礎，2020 年 12 月，ISBN978-4-410-15358-7			

参考書・参考資料等

文部科学省検定教科書 数学Ⅲ

学生に対する評価

1. 授業における活動と発表への取り組み：50%
2. 振り返りと課題提出：50%

授業科目名： 確率・統計学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎名 美穂子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・「確率論，統計学」		
授業の到達目標及びテーマ 統計データの代表値とその特徴，Excel の表計算を用いた表やグラフの作成と見方，場合の数を基本とした確率の求め方，確率の公理とその性質といった知識を身に着けながら，確率・統計の基本的な概念と用語の意味を理解する。			
授業の概要 確率・統計の基礎的な知識を習得しながら，身近な問題を取り上げてデータをまとめ方と活用方法について考え，日常的に実践できる能力を身に付けることを目指す。			
授業計画 第1回 データの扱い方（統計資料の整理と表現方法） 第2回 代表値の特徴と使い方 第3回 散布度の特徴と使い方 第4回 相関係数の意味と使い方 第5回 回帰直線の意味と計算方法 第6回 身近なデータを基にした第1～5回の総合的な演習 第7回 「場合の数」における集合（Set）と要素（Element）の意味 第8回 確率における順列 第9回 確率における組み合わせ 第10回 確率変数における離散型と連続型 第11回 確率変数における平均と分散 第12回 確率分布における定義と具体例 第13回 確率分布における離散型分布と連続型分布 第14回 確率分布における期待値の計算方法・分散・標準偏差 第15回 正規分布の利用と様々な事象の確率			
テキスト 統計学入門，藤川浩，技術評論社，2021年10月，ISBN:978-4-297-12331-4			
参考書・参考資料等 基本統計ハンドブック，福森貢，株式会社PILAR PRESS，2020年3月，ISBN:978-4-86194-054-5			
学生に対する評価 1．授業における活動と発表への取り組み：50% 2．振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： 確率・統計学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井 克哉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・「確率論，統計学」		
授業の到達目標及びテーマ 基礎的なデータ分析のための確率論および統計学の基本的な考え方を理解する。			
授業の概要 確率・統計に必要な基礎的な数学（確率論）を学び，統計学の基本的な推定・検定理論についての理解を目指す。			
授業計画 第1回 確率・統計学Ⅰの復習（数学的確率と統計的確率） 第2回 離散型確率変数とその分布，期待値とその線形性，分散 第3回 様々な分布（二項分布，ポアソン分布の性質など） 第4回 回帰分析（分布の利用） 第5回 第4回までのまとめ（離散型確率変数と分布について） 第6回 連続型確率変数とその分布，期待値とその線形性，分散 第7回 正規分布，一様分布，指数分布の性質 第8回 ベイズの定理 第9回 母集団と標本，標本分布，中心極限定理 第10回 区間推定，母平均の区間推定 第11回 母比率の区間推定，母分散の区間推定 第12回 仮説検定，母平均の検定 第13回 母比率の検定，母平均の差の検定 第14回 適合度検定，独立性の検定 第15回 これまでのまとめ（推定，検定）			
テキスト 「はじめての統計学」，鳥居泰彦著，日本経済新聞社			
参考書・参考資料等 基本統計ハンドブック，福森貢，2021 年 3 月，株式会社 PILAR PRESS			
学生に対する評価 1. 授業における活動と発表への取り組み：50% 2. 振り返りと課題提出：50%			

授業科目名： コンピュータ概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西端律子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ (1)コンピュータ情報社会を支えるコンピュータの基本的な技術を理解する。 (2)情報の表現方法について、進法、データの取り扱い方などについて、基本的な理論を理解する。			
授業の概要 本授業においては、コンピュータ情報社会を支えるコンピュータの基本的な技術、情報の表現方法として進法、データの取り扱いなどについて講義を行う。最後に Society5.0 時代の教育のあり方について、情報をデザインし、プレゼンテーションを行う。			
授業計画 第1回 導入と高校「情報科」の振り返り 第2回 情報化社会の歴史とコンピュータ 第3回 コンピュータの構成 第4回 アナログ情報とデジタル情報 第5回 数値と文字の表現 第6回 論理回路と演算 第7回 音の表現 第8回 画像の表現 第9回 データの圧縮 第10回 Society5.0 時代の情報システム 第11回 教育分野における Society5.0 技術の活用 第12回 情報デザインと表現の工夫 第13回 プレゼンテーション制作 第14回 プレゼンテーションと相互評価 第15回 総括			
テキスト 『高校情報Ⅰ』実教出版			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 プレゼンテーション（25%）、試験（75%）			

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福森貢 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ アルゴリズムの重要性とそれを実現するためのプログラミングの基礎について理解する。			
授業の概要 コンピュータをコントロールするためのソフトウェアに関する理解を深める。オペレーティングシステムの役割、アプリケーションソフトウェア、プログラミングに必要なアルゴリズムなどの基礎知識を身につける。			
授業計画 第 1 回 授業の概要説明（授業の進め方、到達目標など） 第 2 回 ソフトウェアとハードウェアについて 第 3 回 オペレーティングシステムとアプリケーションソフトウェアについて 第 4 回 プログラミング言語について 第 5 回 アルゴリズムとは 第 6 回 フローチャートの基本 1 流れ図の基本解説 第 7 回 フローチャートの基本 2 アルゴリズムを流れ図で表現する 第 8 回 変数、判断、繰り返し 1 基礎編 第 9 回 変数、判断、繰り返し 2 実用編 第 10 回 配列、探索、ソート 1 基礎編 第 11 回 配列、探索、ソート 2 実用編 第 12 回 課題プログラム作成 1 構想を練る 第 13 回 課題プログラム作成 2 アルゴリズムを考える 第 14 回 課題プログラム作成 3 フローチャートを作成する 第 15 回 試験 第 16 回 試験の解説			
テキスト 基本情報技術者 大滝みや子先生のかんたんアルゴリズム解法～流れ図と疑似言語～（リックテレコム）			
参考書・参考資料等 適宜配布する。			

学生に対する評価

提出課題 20%、定期試験 80%として評価する。

授業科目名： プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福森貢 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ 「プログラミングⅠ」で学習したアルゴリズムとフローチャートの知識を使って、実際にプログラミング言語で簡単なアプリを作成できる。			
授業の概要 教育現場を想定した簡単なアプリを作成することで、プログラミングについて理解を深める。			
授業計画 第1回 授業の概要説明（授業の進め方、到達目標など） 第2回 ソフトウェアとハードウェアについて 第3回 プログラミング言語の種類について 第4回 Excel VBA の使用方法1 開発環境の準備・設定 第5回 Excel VBA の使用方法2 開発環境の詳細な使用方法 第6回 Excel VBA によるアプリ作成1 構想編 第7回 Excel VBA によるアプリ作成2 開発編 第8回 Excel VBA によるアプリ作成3 テスト・デバッグ編 第9回 Python の使用方法1 開発環境の準備・設定 第10回 Python の使用方法2 開発環境の詳細な使用方法 第11回 Python によるアプリ作成1 開発編 第12回 Python によるアプリ作成2 テスト・デバッグ編 第13回 課題プログラム作成1 構想編 第14回 課題プログラム作成2 開発からデバッグまで 第15回 試験 第16回 試験の解説			
テキスト パソコン&オンライン授業活用読本（日経パソコン Edu アクセス権付き）（日経 BP）			
参考書・参考資料等 適宜配布する。			
学生に対する評価 提出課題 20%、定期試験 80%として評価する。			

授業科目名： 情報と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小崎 誠二 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ （１）知識基盤社会における望ましい行動について理解し、実際に行動できる。 （２）社会の情報化の進展による新たに生じる課題を見つけ、解決できるよう考えることができる。 （３）問題解決の手法を用い、活用の具体例を考えることができる。 （４）表出したアイディアについて、自己評価することができる。			
授業の概要 近年、情報に関する急速な技術革新によって、「知識基盤社会」と呼ばれる社会の情報化が進展して高度化している。本講義では、社会の変化を捉え、知識基盤社会での望ましい行動、情報の扱い方、教育などについて幅広く学ぶ。また、自らも知識基盤社会で情報を創り、知識基盤社会の形成に主体的に参加する。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 情報化社会とは 第3回 社会のデジタルトランスフォーメーション 第4回 令和の日本型教育 第5回 教育の情報化 第6回 学校のデジタル化 第7回 小学校におけるプログラミング教育 第8回 プログラミング教育演習（基本） 第9回 プログラミング教育演習（応用） 第10回 プログラミング教育演習（発表） 第11回 社会を変えるアイディアソン～シンキングツール 第12回 社会を変えるアイディアソン～ロジカルシンキング 第13回 社会を変えるアイディアソン～プログラミング 第14回 社会を変えるアイディアソン～発表と相互評価 第15回 総括			
テキスト 授業中に指示する。			
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領解説情報編			

学生に対する評価

1. 課題レポート：80%（授業内で複数回指示する）
2. 実習制作物：20%（授業内で複数回指示する）

授業科目名： 学校データとセキュリティ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小崎誠二 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ （１） 学校教育で扱う教育データ（学校データ）について基礎的な知識を修得する。 （２） 学習指導・生徒指導・学級経営・学校運営など教育活動の各場面の指導法を考える。			
授業の概要 教育データを利活用するための技術は世界的に急速に発展していることから、諸外国の最先端の知見の取り込みや相互運用性の確保のため、国際標準等について理解する。また、学校教育は文化や習慣等に大きく拠る部分もあることから、国際標準等の知見を活用しつつ、我が国の初等中等教育に適した仕組みはどのようなものか、運用のためのセキュリティを踏まえながら考え、模擬授業を行う。			
授業計画 第1回 学校データ 第2回 教育データの利活用 第3回 ワンソース・ワンマスタ 第4回 プライバシーの保護 第5回 デジタル社会を形成するための基本原則 第6回 セキュリティの考え方 第7回 UI・UX の改善と国民向けサービス 第8回 デジタル社会の共通機能の整備・普及 第9回 デジタルコンテンツ 第10回 模擬授業準備 第11回 模擬授業～1回目（A グループ） 第12回 模擬授業～2回目（B グループ） 第13回 模擬授業～3回目（C グループ） 第14回 模擬授業～4回目（D グループ） 第15回 総括			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 教育データ利活用ロードマップ（令和4年1月7日デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省）			
学生に対する評価 1. 提出レポート：85%（授業中に指示） 2. 実習成果物：15%（模擬授業等）			

授業科目名： 数学科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎名 美穂子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
中学校・高等学校数学における指導目標を明らかにし、小学校と高等学校の接続を踏まえながら生徒の思考過程・学習教材及び指導方法・評価方法について理解することができる。 1. 中学校・高等学校の学習内容を概観し、数学教育の意義について考える。 2. 指導と評価の一体化、教師の支援、数学的活動を通して授業方法を考える。 3. 授業計画や教材研究を基にした学習指導案の作成ができるようになる。			
授業の概要			
中学校学習指導要領を基にして、高等学校学習指導要領の領域である「数学Ⅰ」との接続を理解する。資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基礎的な知識と数学的な見方・考え方を身に付けるために、グループワークを適所に設け、数学的問題解決を通して教材研究、学習指導案の作成、模擬授業を行う。			
授業計画			
第1回 授業の内容及び方法に関するオリエンテーション「小学校との接続と数学教育実践上の課題」			
第2回 中学校・高等学校数学における学習指導要領改訂における経緯と趣旨			
第3回 国際的な学習到達度に関する調査（OECD-PISA）から見える課題			
第4回 全国学力・学習状況調査問題から見える課題			
第5回 数学科授業における数学的活動と学習者の思考過程、教材開発の視点			
第6回 中学校の「A 数と式」領域における内容、教材、効果的なICT活用			
第7回 中学校の「B 図形」領域における内容、教材、効果的なICT活用			
第8回 中学校の「C 関数」領域における内容、教材、効果的なICT活用			
第9回 中学校の「D データの活用」領域における内容、教材、効果的なICT活用			
第10回 数学科における観点別評価の在り方			
第11回 数学科学習指導案の作成の基本（中学校）			
第12回 数学科学習指導案の作成（中学校）Ⅰ（単元目標・単元について・授業計画）			
第13回 数学科学習指導案の作成（中学校）Ⅱ（本時の展開と評価）			
第14回 数学科における模擬授業と協議			
第15回 数学科授業の分析と評価			

テキスト

文部科学省, 中学校学習指導要領解説 数学編 平成 30 年 3 月, 日本文教出, ISBN978-4-536-59012-9

文部科学省, 高等学校学習指導要領解説 理数編 平成 31 年 3 月, 学校図書, ISBN978-4-7625-0535-5

読んで学ぶ数学の本質 株式会社新興出版社啓林館 ISBN978-4-402-20264-4

参考書・参考資料等

文部科学省・国立教育政策研究所, 「全国学力・学習状況調査報告書 中学校数学」

学生に対する評価

1. 授業における活動と発表への取り組み : 50%
2. 振り返りと課題提出 : 50%

授業科目名： 数学科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：横 弥直浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校・高等学校での数学の指導目標を明らかにし、中学校との接続を踏まえながら生徒の思考過程・学習教材および学習内容の系統的な理解をすることができる。 1. 中学校・高等学校の学習内容を概観し、系統的に理解を深める。 2. 中学校・高等学校での授業について、指導と評価の一体化を考える。 3. 授業計画や教材研究をもとにした学習指導案の作成ができるようになる。			
授業の概要 高等学校学習指導要領を基にして、中学校数学との関連、各学年・科目の領域の内容と数学的な見方・考え方を理解する。資質・能力の育成を目指した数学科指導に関わる基礎的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を身に付けるために、グループワークを適所に設け、数学的問題解決を通して教材研究、学習指導案の作成、模擬授業を行う。			
授業計画 第1回 授業の内容及び方法に関するオリエンテーション「どうして数学を教えるのか」 第2回 数学教育の目標論 第3回 中学校・高等学校学習指導要領からみる数学教育の目標 第4回 中学校の「A 数と式」領域における教材研究と実践上の課題 第5回 高等学校の代数分野における教材研究と実践上の課題 第6回 中学校の「B 図形」領域における教材研究と実践上の課題 第7回 高等学校の幾何分野における教材研究と実践上の課題 第8回 中学校の「C 関数」領域における教材研究と実践上の課題 第9回 高等学校の解析分野における教材研究と実践上の課題 第10回 中学校の「D データの活用」領域における教材研究と実践上の課題 第11回 高等学校の確率・統計分野における教材研究と実践上の課題 第12回 指導と評価の一体化についての考察 第13回 数学科学習指導案の作成（高等学校）Ⅰ 単元目標・単元について・授業計画 第14回 数学科学習指導案の作成（高等学校）Ⅱ 本時の学習活動・指導上の留意点 第15回 模擬授業と協議			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領解説『数学編』」平成 30 年 3 月，日本文教出版，ISBN978-4-536-59012-9 文部科学省「高等学校学習指導要領解説『理数編』」平成 31 年 3 月，学校図書，ISBN978-4-7625-0535-5			

参考書・参考資料等
必要に応じて授業で資料を，適宜配布する。
学生に対する評価
1．授業における活動と発表への取り組み：50%
2．振り返りと課題提出：50%

授業科目名： 数学科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための (中) 必修/ (高) 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：横 弥直浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 数学)		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 中学校・高等学校での数学的な見方・考え方を明らかにし、生徒の数学的活動と思考過程を理解して教材研究および模擬授業をすることができる。 1. 中学校・高等学校の数学的な見方や考え方について理解を深める。 2. 中学校・高等学校の数学的活動についての理解と、教材研究ができるようになる。 3. 作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、研究協議ができるようになる。			
授業の概要 中学校・高等学校学習指導要領を基にして、主体的・対話的で深い学びを目指した各内容に関わる教材研究を行い、グループワークを適所に設け、模擬授業を通して数学科学習指導に関わる幅広い知識、技能と数学的な見方・考え方を主体的に身に付けることができるようにする。			
授業計画 第1回 授業の内容及び方法に関するオリエンテーション「どんな数学をどのように教えるのか」 第2回 数学的な見方や考え方とは何か 第3回 中学校の課題学習についての考察 第4回 高等学校の課題学習についての考察 第5回 高等学校「数学A」数学と人間の活動についての考察 第6回 高等学校「数学B」数学と社会生活についての考察 第7回 数学的活動とは何か 第8回 問題解決学習とは何か 第9回 数学的リテラシーとは何か 第10回 教材研究と模擬授業Ⅰ基礎 知識・技能を重視した授業 第11回 教材研究と模擬授業Ⅱ基礎 思考・判断・表現を重視した授業 第12回 教材研究と模擬授業Ⅲ発展 中学校の課題学習の授業 第13回 教材研究と模擬授業Ⅳ発展 高等学校の課題学習の授業 第14回 数学的活動を重視した授業と協議 第15回 これからの数学教育の展望と求められる教師像			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領解説『数学編』」平成30年3月、日本文教出版, ISBN978-4-536-59012-9 文部科学省「高等学校学習指導要領解説『理数編』」平成31年3月、学校図書, ISBN978-4-7625-0535-5			

参考書・参考資料等

文部科学省検定教科書 数学 A, 数学 B, 東京書籍, 啓林館, 数研出版など

学生に対する評価

1. 授業における活動と発表への取り組み : 50%
2. 振り返りと課題提出 : 50%

授業科目名： 数学科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための (中) 必修/ (高) 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：横 弥直浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 数学)		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 中学校・高等学校で、ICT を用いて数学的活動をする授業を探究する。代数、幾何、解析、統計・確率等の分野における教材研究や、模擬授業および研究協議をすることができる。 1. 中学校・高等学校の学習内容と ICT 活用についての理解を深める。 2. ICT を活用した教材研究をし、学習指導案の作成・模擬授業ができるようになる。 3. ICT 活用を含めて、課題学習や数学活用分野の模擬授業・研究協議ができるようになる。			
授業の概要 中学校・高等学校学習指導要領を基にして、課題学習や数学活用分野の内容について、また ICT の活用した具体的な指導展開を個人またはグループごとに作成し、模擬授業・研究協議を通して授業の改善や課題を明らかにしていく。フリーソフトウェア「grapes (以下 GR)」, 「Geo Gebra (以下, GG)」を活用できるようにする。			
授業計画 第 1 回 授業の内容及び方法に関するオリエンテーション「学習指導要領における ICT 活用について」 第 2 回 GG を活用した指導についての考察Ⅰ 基本的な操作と教材開発 第 3 回 GG を活用した指導についての考察Ⅱ 指導展開の工夫 第 4 回 GR を活用した指導についての考察Ⅰ 基本的な操作と教材開発 第 5 回 GR を活用した指導についての考察Ⅱ 指導展開の工夫 第 6 回 ICT を活用した「代数分野」の模擬授業と協議 第 7 回 ICT を活用した「幾何分野」の模擬授業と協議 第 8 回 ICT を活用した「解析分野」の模擬授業と協議 第 9 回 ICT を活用した「統計・確率分野」の模擬授業と協議 第 10 回 ICT を活用した指導についての学習評価 第 11 回 数学的活動を重視した模擬授業と協議 第 12 回 課題学習の模擬授業と協議 第 13 回 数学活用分野の模擬授業と協議 第 14 回 わかる授業について模擬授業と協議 第 15 回 ICT を活用したこれからの数学教育についての協議			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領解説『数学編』」平成 30 年 3 月, 日本文教出, ISBN978-4-536-59012-9 文部科学省「高等学校学習指導要領解説『理数編』」平成 31 年 3 月, 学校図書, ISBN978-4-7625-0535-5			

参考書・参考資料等

必要に応じて授業で資料を，適宜配布する。

学生に対する評価

1. 授業における活動と発表への取り組み：50%
2. 振り返りと課題提出：50%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 松井圭子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ 日本国憲法の基本的な知識（人権・統治）を習得している。			
授業の概要 日本国憲法の基本的な知識を習得できるよう授業を進めます。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 憲法総論 第 3 回 人権 1（人権総論） 第 4 回 人権 2（法の下での平等，幸福追求権） 第 5 回 人権 3（精神的自由権－表現の自由以外） 第 6 回 人権 4（精神的自由権－表現の自由 1） 第 7 回 人権 5（精神的自由権－表現の自由 2） 第 8 回 人権 6（経済的自由権） 第 9 回 人権 7（社会権，人身の自由など） 第 10 回 統治総論 第 11 回 統治 1（国会） 第 12 回 統治 2（内閣） 第 13 回 統治 3（司法権） 第 14 回 統治 4（その他） 第 15 回 総復習			
テキスト レジュメを配布します。			
参考書・参考資料等 ・教職課程のための憲法入門 第 2 版・西原 博史，斎藤 一久（編集）・弘文堂・433535763X 内容は簡単ではありませんが，教職課程をとられる方は，興味を持って読んでいただけるのではないかと思います。なお，時間の都合上，授業中に教職に特化した内容までは踏み込めないと思いますが，内容のリクエスト（このようなことを授業で取り扱ってほしいなど）やご質問は随時受け付けます。 ・日本国憲法 大阪おばちゃん語訳・谷口 真由美・文藝春秋（文庫）・4167912694 日本国憲法の条文の意味を楽しく理解できる本です。 ・一歩先への憲法入門〔第 2 版〕・片桐 直人，井上 武史，大林 啓吾・有斐閣・464122823X			

法学部生や法科大学院生でも十分使える内容ですが、比較的わかりやすく書かれています。

- ・憲法 第七版・芦部 信喜（著）、高橋 和之（補訂）・岩波書店・4000613227

憲法の基本書で1冊おすすめることすればこの本です。

- ・憲法判例 50! 第2版 (START UP)・上田 健介, 尾形 健, 片桐 直人・有斐閣・4641227861

憲法の有名な判例を厳選して紹介されています。解説もわかりやすいので、おすすめです。

その他、参考図書は、授業中に紹介します。

学生に対する評価

毎回の確認テストの受講状況や成績を含む履修態度に対する評価を60%, 第15回終了後に実施するテストに対する評価を40%とします。

授業科目名： スポーツ実習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 生野勝彦 伊藤麻由美 担当形態： クラス分け・単 独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ [生野クラス] (1) 仲間と協力して運動を楽しむことができる。 (2) スポーツの実践を通してその意義が理解できる。 [伊藤クラス] 1. スポーツに親しむ態度や能力を身につけている。 2. 運動・スポーツを実施するために必要な知識や技能を獲得している。 3. 運動・スポーツを通して仲間と協力し、コミュニケーションを図ることができる。			
授業の概要 [生野クラス] 本実習を健康・スポーツ科学の実践・入門編と位置づける。多くの学生はコロナ禍のなか運動不足になりがちであるが、現在おかれている状況を前向きに捉え、生涯体育につなげる態度を身につける。 [伊藤クラス] 運動・スポーツを企画・実践する力を獲得し、各種の運動・スポーツに親しむ態度や能力を育むことを目標とする。学生企画を通じて、①目的に応じた運動・スポーツの計画方法、②各種目を実践するにあたって必要な技能やルール、用具の理解、③安全な運動実践および集団行動、について学ぶ。			
授業計画 [生野クラス] 第 1 回～第 5 回卓球、第 6 回～第 15 回バレーボール 《スポーツのできる服装に更衣すること》 ※卓球 第 1 回オリエンテーション・ナックルサービス・ドライブサービス・フォアハンド 第 2 回カットサービス・バックハンド・チャンピオンゲーム 第 3 回フォアハンドドライブ・スマッシュ・チャンピオンゲーム 第 4 回ダブルスのリーグ戦 第 5 回シングルのリーグ戦 ※バレーボール 第 6 回アンダーサーブ・オーバーハンド・アンダーハンド			

第7回円陣パス（パスとカバープレー）

第8回ランニングパス

第9回レシーブ練習

第10回トスとスパイク練習

第11回レシーブ→トス→スパイク

第12回サーブレシーブ→トス→スパイク

第13回ゲーム（ローテーションと役割）

第14回ゲーム（審判法）

第15回ゲームリーグ戦

〔伊藤クラス〕

第1回（講義）オリエンテーション／運動・スポーツ実践へ向けての準備

第2回 縄跳び・ダブルダッチ①（導入）各班での練習・課題の明確化

第3回 縄跳び・ダブルダッチ②（展開）各班での練習・課題の明確化

第4回 縄跳び・ダブルダッチ③（整理）各班での練習・成果の発表

第5回 ダンス①（導入）各班の課題設定・練習

第6回 ダンス②（展開1）各班での練習（縄の入り方の理解）

第7回 ダンス③（展開2）各班での練習（縄からの出方、跳ぶリズムの習得）

第8回 ダンス④（整理）リハーサル・成果の発表

第9回 バレーボール①（導入）アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、ルールを理解

第10回 バレーボール②（展開）サーブ練習、レシーブ練習

第11回 バレーボール③（整理）チーム内での連携、試合

第12回 バドミントン①（導入）クリアとドライブの打ち分け、ルールを理解

第13回 バドミントン②（展開1）フォアとバックの打ち方、スマッシュ

第14回 バドミントン③（展開2）団体戦へ向けての練習・チーム内での連携

第15回 バドミントン④（整理）団体戦、授業のまとめ

テキスト

〔生野クラス〕

なし

〔伊藤クラス〕

適宜配布する

参考書・参考資料等

〔生野クラス〕

適宜

〔伊藤クラス〕

適宜紹介する

学生に対する評価

〔生野クラス〕

スキルテスト 60%、平常点 40%(3分の2以上の出席が必要)

〔伊藤クラス〕

受講態度および課題提出 (60%)、指導略案の評価 (40%)、の配分で評価する。

授業科目名： スポーツ実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 辰巳智則 生野勝彦 上田恵子 福本貴彦 加納希和子
			担当形態： クラス分け・単 独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ ・ 自らが選択した運動・スポーツのもつ特性を理解している。 ・ 自らが選択した運動・スポーツの実践に必要な基礎的技能を身につけている。 ・ 安全に留意し、仲間と協力して取り組もうとしている。 ・ 生涯スポーツへの実践的態度を身につけている。			
授業の概要 アダプテッド・スポーツ、コアトレ・ウォーキング、バスケットボール及びバドミントンの4種目群から1種目群を選択し、夏期もしくは冬期の集中授業として取り組みます。			
授業計画 ■夏期集中 【コアトレ・ウォーキング（担当：上田恵子）】 第1回 オリエンテーション 第2回 体幹が姿勢や健康に及ぼす影響 第3回 姿勢・アライメント測定 第4回 フィードバック、歩行のチェック、目標設定 第5回 体幹トレーニング①姿勢改善・基礎代謝アップ 第6回 体幹トレーニング②正しい姿勢と座り方 第7回 体幹トレーニング③ヒップアップする足運び 第8回 ウォーキング①上肢の使い方 第9回 ウォーキング②下肢の使い方 第10回 ウォーキング③腕の振り方 第11回 ウォーキング④総合練習 第12回 ウォーキング発表練習①ポージングの練習 第13回 ウォーキング発表練習②ターンの練習 第14回 ウォーキング発表練習③グループ練習			

第15回 ウォーキング発表

第16回 振り返りとまとめ

【アダプテッド・スポーツ（担当：加納希和子・福本貴彦）】

第1回 オリエンテーション

第2回 アダプテッドスポーツとパラスポーツの理解

第3回 スポーツ大会と障がいのクラシフィケーション

第4回 年齢・障がいによる身体機能とリスク管理

第5回 障がいの理解①車椅子の体験

第6回 障がいの理解②視覚障がい者への介助方法

第7回 障がいの理解③装具体験

第8回 知的障がい、精神障がいと運動（リズム体操等のレクリエーション）

第9回 パラスポーツの実践①シッティングバレー

第10回 パラスポーツの実践②ゴールボール

第11回 パラスポーツの実践③ボッチャ

第12回 アダプテッドスポーツを創る①学習指導案のアウトライン

第13回 アダプテッドスポーツを創る②学習指導案の作成

第14回 アダプテッドスポーツの実践①学習指導案Aの実践

第15回 アダプテッドスポーツの実践②学習指導案Bの実践

第16回 振り返りとまとめ

注：第9～11回パラスポーツの実践については、種目変更の可能性がある。

■冬期集中

【バスケットボール（担当：生野勝彦）】

第1回 オリエンテーション

第2回 ボールのもらい方

第3回 キャッチ&ドリブル・パスの基本

第4回 レイアップシュート・ジャンプシュート

第5回 フリースローの基本・フックシュート・マイカンドリル

第6回 インディアナディレイ（シュート練習）

第7回 ドリブルドライブモーション（シュート練習）

第8回 UCLA カット

第9回 アウトサイドスクリーン・3対3ピック&ロール

第10回 ダウンスクリーン・バックスクリーン

第11回 バックドアープレイ

第12回 3対3

第13回 アウトナンバープレイ

第14回 ゲーム①総当たり戦前半

第15回 立位と歩行の実践（上田恵子）
第16回 定期試験
テキスト 随時講義資料を配布する。
参考書・参考資料等 随時紹介する。
学生に対する評価 受講態度（30%）/定期試験（70%）

授業科目名： 運動の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 辰巳智則 上田恵子 担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 運動行動に関する諸概念とその全体構造を正しく理解している。 ・ 運動技能及び体力を向上させる「学習・トレーニング」の心理学的・生理学的基礎を正しく理解している。 ・ わが国の現状と健康づくりのための施策や運動プログラムを正しく理解している。 ・ 学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を正しく理解するとともに、身に付けた知識を日常生活で実践することができる。			
授業の概要			
「運動行動」は人間の営みの基盤であり、広く学習・トレーニングやその指導を適切に行うためには、運動行動を構成する基礎的な概念（体力、技能他）の理解が不可欠である。次に、健康づくりに関する適切な運動指導を行う上では、わが国の疾病状況や高齢化の現状への理解を欠いてはならない。本講義ではまず、広く運動に関する学習・トレーニングの科学的基礎を学ぶ。次に、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき検討し、実技演習を通じてこれを加味した実践的理解へと昇華させる。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション（辰巳智則・上田恵子）			
第 2 回 運動行動に関わる諸概念とその全体構造（辰巳智則）			
第 3 回 運動能力の仕組み（辰巳智則）			
第 4 回 運動に関する諸能力の発達と適時性（辰巳智則）			
第 5 回 運動学習に関する心理学的基礎 1：運動制御理論と主な運動学習理論（辰巳智則）			
第 6 回 運動学習に関する心理学的基礎 2：学習段階とその特徴（辰巳智則）			
第 7 回 体力トレーニングに関する生理学的基礎：エネルギー供給の問題（辰巳智則）			
第 8 回 体力トレーニングの原則（辰巳智則）			
第 9 回 健康づくり施策の変遷（上田恵子）			
第 10 回 生活習慣病について（上田恵子）			
第 11 回 ロコモティブ・シンドロームについて（上田恵子）			
第 12 回 健康づくりのための身体活動基準、身体活動のタイムスタディ（上田恵子）			
第 13 回 行動変容理論（上田恵子）			
第 14 回 立位と歩行の実践 1：正しい姿勢作り（実技演習）（上田恵子）			

第15回 立位と歩行の実践2：正しい歩き方（実技演習）（上田恵子）

定期試験

テキスト

随時講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

受講態度（30%）/定期試験（70%）

授業科目名： 英語コミュニケーションA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担 当 教 員 名： Maria Guzman
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
1 年次の英語教育は、通年にわたって本学の英語教育は、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルに適応する 4 技能の基礎力の育成と強化を目標とする。			
授業の概要			
中学校・高等学校における基本的な英語教育をさらに発展させ自己の考えを表現したり、相手の意図を理解する力を涵養するための英語力の習得を目的とする。そこには、コミュニケーションの道具としてだけではなく、思考の手段としてのことばも含まれる。また、英語の習得のために、母国語と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく自然に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。英語授業の担当教員は、学生のレベルに合わせた英語教育を行い、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能をバランスよく伸ばすことを目標としながら、リスニングとスピーキングの学習を中心的にそれぞれ 90 分の授業を基本的にすべて英語で行う。それにより、前期の授業の終了後は基礎的な会話力が身につき、自信を持って話せるようになり、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現できるようになる。			
授業計画			
第 1 回 Orientation （オリエンテーション）			
第 2 回 Introducing yourself （自己紹介）			
第 3 回 Discussing daily routines （日常習慣や活動）			
第 4 回 Talking about interests and hobbies （趣味について対話）			
第 5 回 Describing family （家族構成を紹介する）			
第 6 回 Giving directions （道案内）			
第 7 回 Explaining present activities （現在の出来事について対話）			
第 8 回 Talking about abilities （人の能力を紹介する）			
第 9 回 Discussing different careers （職業について対話）			
第 10 回 Describing past events and places （過去の出来事や場所）			
第 11 回 Discussing past activities （過去の活動について）			
第 12 回 Describing past occurrences （身近に起きた過去の出来事について語り合う）			
第 13 回 Planning a vacation （旅行の計画を立てる）			
第 14 回 Talking about dietary habits （食生活について語り合う）			
第 15 回 Review/Survey （表現の復習と定期試験について）			

Final Exam (定期試験)
テキスト Network: Get Connected 1, Hutchinson, Tom, Sherman, Kristin, Oxford University Press.
参考書・参考資料等 授業内で随時紹介する。
学生に対する評価 平常点 (小テスト、課題、参加、態度など 50%)、定期試験 (50%)

授業科目名： 情報処理演習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 冬木正紀 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ ビッグデータ、「モノのインターネット」(IoT)、人工知能 (AI) による社会変革の時代における情報通信技術 (ICT) 利用の「仕組み」とそれに関係する「専門用語」を能動的に学習することにより、ICT 利用の背景にあるモデルを理解し ICT を活用する問題解決能力を育むことを目的とする。具体的には、検索により解決案を見つけ、判断できるような問題解決パターンを会得する。			
授業の概要 大学での学習に必要なソフトウェアやシステムの的確な操作を最初の段階で学習する。操作対象となるデータやファイル、処理を行うアプリケーションソフトウェアや情報システムを、科目内容として順次取り上げ、対象や処理の仕組みについて発見的に理解を深める。			
授業計画 第 1 回 畿央大学の情報環境と学習支援システムの使い方、情報セキュリティ 第 2 回 PC の設定 第 3 回 ファイル・フォルダとその利用 第 4 回 ファイル体系、PC 内の保存場所 第 5 回 インターネットとクラウドの利用 第 6 回 個人データのバックアップ・知の個人アーカイブ活用の工夫 第 7 回 アナログとデジタル、文字コード 第 8 回 データとデジタル表現 第 9 回 クラウドと PC 上のファイルの同期、テキストファイルと表現 第 10 回 データの伝送 第 11 回 OS とアプリ、ハードウェアの関係 第 12 回 コンピュータの基本処理、データの入力・処理・出力 第 13 回 インターネットとフェイク情報、SNS 利用リスク 第 14 回 データ通信と Web システム 第 15 回 定期試験の解説 定期試験 (第 14 回と第 15 回の間に実施)			
テキスト 教科書：パソコン&オンライン授業活用読本 (日経 BP 社) (最初の授業までに必ず購入しておくこと) 毎回の授業資料は、OpenCEAS 上に掲載する。			

参考書・参考資料等

授業中に示すことがある。

学生に対する評価

1.提出物：10%（毎回の授業の課題提出、アンケートなど）、定期試験：90%

2.最終週を解説授業とする。

授業科目名： 情報処理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 冬木正紀 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ 情報処理演習Ⅰと同じ目的のもとで、対象とするデータの数理的分析方法とプログラミングによる効率的な処理方法を会得すること、さらに AI 利用による判断特性を理解すること。			
授業の概要 情報処理演習Ⅰの復習から始め、統計の基礎的な概念を身に付けた上で、Excel を利用したデータ処理の基礎を演習形式で学び理解を深める。			
授業計画 第 1 回 情報処理演習Ⅰの復習（1）情報処理演習Ⅰの理解度チェック、知の個人アーカイブ、SNS 利用、情報セキュリティ 第 2 回 情報処理演習Ⅰの復習（2）ファイルの保存場所・フォルダとファイルの命名規則など 第 3 回 AI とその「学習」の特徴 第 4 回 統計の基礎（1）平均値・分散・標準偏差・偏差値 第 5 回 統計の基礎（2）分布・類似度 第 6 回 統計の基礎（3）相関 第 7 回 統計の基礎（4）回帰 第 8 回 統計の基礎（5）これまでの振り返り 第 9 回 統計ソフトの基礎（1）Excel の集計機能の復習 第 10 回 統計ソフトの基礎（2）Excel のグラフ機能の復習 第 11 回 統計ソフトの基礎（3）Excel の機能の追加説明 第 12 回 統計ソフトの基礎（4）Excel の振り返り 第 13 回 総合演習（1）統計用 AI の作成 第 14 回 総合演習（2）統計用 AI の作成 第 15 回 まとめ			
テキスト 教科書：日経パソコン Edu 2020 年度版（日経 BP 社）（情報処理演習Ⅰで使用した教科書です）			
参考書・参考資料等 必要な場合は適宜紹介する。			
学生に対する評価 1. 最終レポート：75% 2. 提出物：25%（授業の中で指示する提出物の内容および提出状況）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：塩原佳典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業では、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。			
授業の概要			
具体的には、以下のような項目について理解を深めることができるようにする。			
(1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。			
1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標。			
2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係。			
(2) 教育に関する歴史の基礎知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
1) 家族と社会による教育の歴史。			
2) 近代教育制度の成立と展開。			
3) 歴史的な視点から見た現代社会における教育課題。			
(3) 教育に関する思想、多様な教育理念と実践および学校教育との関連			
1) 家庭や子供の教育に関する思想。			
2) 学校や学習に関わる教育の思想。			
3) 代表的な教育家のうち主として中等教育に関わる思想。			

授業計画

- 第1回 教育の意義と目的―「教」と「育」の語誌
- 第2回 古代ギリシアの教育思想―ソクラテス、プラトン
- 第3回 中世ヨーロッパにおける教育―キリスト教と教育
- 第4回 近代と向き合う教育思想―ロック、ルソー
- 第5回 20世紀新教育運動―デューイ
- 第6回 江戸の子育てとその思想
- 第7回 日本の近代教育思想―福沢諭吉の教育思想
- 第8回 社会的選別と国民統合―教育勅語を読む
- 第9回 教育における「画一」と「自由」
- 第10回 生活綴方教育の射程―「戦前」から「戦後」へ
- 第11回 高度経済成長以降の家庭教育と学校教育―地域社会と人間形成
- 第12回 「学び」という経験
- 第13回 学校教育とジェンダー―現代日本の教育課題①
- 第14回 いじめの構造―現代日本の教育課題②
- 第15回 まとめとふりかえり―教育の歴史・理念から現代教育を問いなおす

テキスト

授業においてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『ヒューマニティーズ教育学』 広田照幸著 岩波書店 ISBN 978-4-00-028324-3

『教育社会学（改訂版）』 天野郁夫ほか著 日本放送出版協会 ISBN 978-4-595-58749-8

学生に対する評価

1. 期末レポート 70%（内容については授業中に指示する）
2. 毎回の小レポート 30%（各回の内容に即した小レポートを課す）

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮村裕子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
（１）教職の社会的意義や公教育を担う教員の役割について学び、教職に対する理解を深めている。 （２）教職の専門性や教職に求められる資質能力について学び、教職への意欲を高めている。 （３）教員の職務内容やチームとしての学校運営の重要性について学び、多様な人材と連携・協働しながら組織的に諸問題に取り組める、「学び続ける教員」になるための心構えや態度を身に付けている。			
授業の概要			
本授業では、我が国の公教育を担う学校教育における教員の職務や責任等について学び、「教職とは何か」を考える。教職の意義や役割、教員に対する社会的な期待について理解し、子どもや学校現場の状況を理解したうえで、自らが現代の教育課題に対応できる教員となるための意欲や態度を養う。近年の教育政策の動向や教職観の変遷について学ぶことで、教員として「ありたい（なりたい）姿」だけでなく、「どのような教員が求められているか」を理解し、そのために教員志望者として「どのように学ぶべきか」を考える。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ討議や演習等を行い、学生同士の学び合いを促進する。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクションー教職への期待			
第2回 公教育を担う教職の意義と特徴			
第3回 教員の養成と教員免許状ー教職観の変遷			
第4回 教員の採用と求められる資質能力			
第5回 教員の職務(1)ー学習指導、授業づくり			
第6回 教員の職務(2)ー生徒指導、いじめ対応、進路指導			
第7回 教員の職務(3)ー学校内や学校外機関との連携、チーム学校			
第8回 教員の服務(1)ー職務上の義務			
第9回 教員の服務(2)ー身分上の義務①個人情報の漏えい防止			
第10回 教員の服務(3)ー身分上の義務②ハラスメントの防止			
第11回 教員の身分と待遇			
第12回 教員のライフサイクルと研修(1)ー教員の成長と研修			
第13回 教員のライフサイクルと研修(2)ー教員の専門性と研修			
第14回 教員に対する評価			
第15回 教員のメンタルヘルスと職場環境、まとめ			

定期試験
テキスト 授業内において適宜配布する。
参考書・参考資料等 ・『新しい時代の教職入門』 秋田喜代美・佐藤学 有斐閣 4-641-12241-5 ・『教職入門 未来の教師に向けて』 古橋和夫 編 萌文書林 978-4-89347-123-9
学生に対する評価 定期試験 60% 提出物や授業態度 40%を基本に総合的に判断し評価する。

授業科目名： 教育法制論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宮村 裕子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）現代の公教育制度に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、その意義について理解している。 （２）公教育の目的を実現するための学校教育や教育行政の役割、さらに経営的事項について理解するとともに、それらをめぐる課題について考察できる。			
授業の概要 本授業では、公教育の原理や理念を通じて公教育制度の意義について学び、それらを支える教育法規や教育行財政の仕組みについて理解する。学校教育制度の基本的事項を確認したうえで、学校や教育行政機関の経営的事項について学び、その望ましい姿や効果的な在り方について考える。学校経営における PDCA サイクルや、保護者・地域との連携・協働による「地域とともにある学校」づくり、学校安全の意義や必要性についても学ぶ。講義形式が中心となるが、グループ討議や事例を検討する演習を通じて、学生同士で学び合う機会をつくる。			
授業計画 第 1 回 公教育の原理と理念 第 2 回 教育制度と教育法規 第 3 回 教育の基本理念と教育制度の課題(1)—教育の目的 第 4 回 教育の基本理念と教育制度の課題(2)—学校教育・教員制度 第 5 回 教育の基本理念と教育制度の課題(3)—家庭教育・社会教育 第 6 回 教育の基本理念と教育制度の課題(4)—教育行政・教育振興基本計画 第 7 回 教育行財政の組織と機能(1)—国 第 8 回 教育行財政の組織と機能(2)—地方公共団体 第 9 回 学校教育制度の基本的事項と学校経営の仕組み 第 10 回 学校の管理運営(1)—組織編制、教職員 第 11 回 学校の管理運営(2)—施設設備、危機管理 第 12 回 学校の管理運営(3)—教育課程 第 13 回 学校の管理運営(4)—生徒指導 第 14 回 学校経営の制度と動向(1)—マネジメントサイクル、学校評価 第 15 回 学校経営の制度と動向(2)—保護者や地域との連携・協働、学校安全への対応 定期試験			
テキスト ・健康科学部：『必携教職六法 2023 年度版』（協同出版）			

・教育学部：『教育法規スタートアップ・ネクスト——Crossmedia Edition』高見茂・開沼太郎・宮村裕子編、昭和堂

・その他、授業において適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『新・教育制度論—教育制度を考える 15 の論点』高妻紳二郎編著 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

1. 定期試験：70%（授業で学習した内容全体が出題範囲となる）
2. 提出物と受講態度：30%（授業中の課題への取り組みや提出状況を確認する）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小山内 秀和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、子どもの学習活動を支えるための支援や指導につながる考え方を理解できる。			
授業の概要 幼児期から青年期にかけての子どもの発達について、知覚・運動、認知、言語、対人関係、社会性といった諸側面から概観する。その上で、学習のメカニズムである条件づけや記憶機能、知識と思考、動機づけといった、学習活動を支える心理的メカニズムを解説する。さらに、それを踏まえた教授法の理論や教育評価、子どもを理解するための知的能力やパーソナリティなどの個性と集団に関する理論、適応の問題とその援助について説明する。			
授業計画 第1回 イン트로ダクション：子どもの発達と教育心理学 第2回 子どもの発達1：新生児期、乳児期の特徴 第3回 子どもの発達2：幼児期の特徴 第4回 子どもの発達3：児童期の特徴 第5回 子どもの発達4：思春期、青年期の特徴 第6回 学習のしくみ 第7回 記憶のしくみ 第8回 学習の過程1：知識の獲得 第9回 学習の過程2：思考と問題解決 第10回 動機づけ 第11回 教授法と子どもの援助1：連合理論・認知理論・社会構成理論 第12回 教授法と子どもの援助2：授業と教師の影響 第13回 教育評価 第14回 子どもの個性と集団の理解 第15回 子どもの適応の課題とその支援 定期試験			
テキスト 『教師と学生が知っておくべき教育心理学』武田明典（編著）、北樹出版、2020 年、ISBN 978-4-779306358			

参考書・参考資料等

『教育心理学 第3版』子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著）、有斐閣、2015年（ISBN 978-4-641-07245-9）

『教育心理学：言語力から見た学び』福田由紀他（著）、培風館、2016年（ISBN 978-4563052485）

学生に対する評価

- ・ 定期試験（60%）
 - ・ 各回のアンケートまたは小レポート（オンライン授業支援システム上で課題を設定し指定された方法での提出とする：30%）
 - ・ 授業での積極的な参加態度（10%）
- で評価する。

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小山内 秀和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学修の過程		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけることができる。 特に、ヒトの心身の発達過程についての知見を理解、習得できる。			
授業の概要 子どもの発達について、まず代表的理論と、発達に関連する外的、内的要因等について解説する。次に、胎児期から青年期までの言語、運動、認知、社会性、感情、対人関係、アイデンティティといった各側面の発達について詳しく見てゆく。さらに、成人期、老年期にいたるまでの、生涯にわたる発達のすがたを解説する。			
授業計画 第1回 イントロダクション 第2回 発達の理論と遺伝・環境 第3回 新生児の能力とその発達 第4回 知覚と運動の発達 第5回 認知の発達 第6回 言語の発達 第7回 アタッチメント 第8回 社会性の発達 第9回 感情の発達と自己制御 第10回 対人関係の発達 第11回 アイデンティティの発達 第12回 恋愛とジェンダー・性役割 第13回 家族関係の発達 第14回 成人期の発達 第15回 老年期の発達 定期試験			
テキスト 教員が作成した資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『ベーシック発達心理学』開一夫・齋藤慈子（編），東京大学出版会，2018 年（ISBN 978-4-13-012113-2）			

学生に対する評価

- ・ 定期試験 (60%)
 - ・ 各回のアンケートまたは小レポート ((OpenCEAS で課題を設定し指定された方法での提出とする : 30%)
 - ・ 受講態度 (10%)
- で評価する。

授業科目名： 特別支援教育入門A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大久保賢一 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 到達目標は以下の 5 点である。 ①ICF をはじめとする「障害」に対する多様な捉え方を理解し、説明できるようになる。 ②障害児教育のこれまでの歴史的経緯と特別支援教育への転換に関する背景や理念を理解し、説明できるようになる。 ③インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、説明できるようになる。 ④発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解し、説明できるようになる。 ⑤視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難、障害以外の教育ニーズについて基礎的な知識を身に付けている。			
授業の概要 本講義は、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標とする。特別支援教育に関する基礎的な理念、歴史、制度、障害児教育各領域の方法、指導法を紹介する。講義やグループ討議等を通して実践的に学修する。特別支援教育を初めて学ぶ者が受講することが望ましい。			
授業計画 第 1 回 様々な「障害」の捉え方と特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導） 第 2 回 「障害科学」の基礎と ICF における「障害観」 第 3 回 特別支援教育の歴史と現代的課題①（障害児教育の世界史と日本史） 第 4 回 特別支援教育の歴史と現代的課題②（優生思想、貧困、言語、文化、セクシュアリティなど） 第 5 回 発達障害に関する概説（発達障害の定義、LD、ADHD） 第 6 回 発達障害に関する概説（ASD、その他の発達障害） 第 7 回 学習面と行動面の支援 第 8 回 まとめと最終レポート			

テキスト

毎回、資料を配付します。

参考書・参考資料等

- ・五十嵐信敬 他（2000）『教職教養 障害児教育』，コレール社
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・世界保健機構（WHO）（2005）『ICF（国際生活機能分類）活用の試み』，ジアース教育新社
- ・内山登紀夫 他（2006・2008）『シリーズ 発達と障害を考える本 1～12』，ミネルヴァ書房
- ・内山登紀夫 他（2009）『シリーズ 特別支援教育をすすめる本 1～4』，ミネルヴァ書房
- ・斎藤佐和 他（2006）『講座 特別支援教育① 特別支援教育の基礎理論』，教育出版
- ・上野一彦 他（2007）『S・E・N・S 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント』，金剛出版
- ・中村満紀男 他（2007）『シリーズ 障害科学の展開 第1巻 障害科学とは何か』，明石書店
- ・安藤隆男 他（2009）『シリーズ 障害科学の展開 第2巻 特別支援教育を創造する教育学』，明石書店
- ・中村満紀男 他（2003）『障害児教育の歴史』，明石書店
- ・時事通信出版局 『よくわかる特別支援学校 教員採用試験よくわかるシリーズ⑨ 2011 年度版』，時事通信出版局

学生に対する評価

レポート課題： 100%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：関口洋平 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）教育課程の意義とその役割・機能について理解している。 （２）教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法について理解している。 （３）カリキュラム・マネジメントの内容とその重要性について理解している。			
授業の概要 教育課程は教育の原理や内容、方法と関わり、学校教育のありようを大きく規定するものである。本授業では、広く教育課程の意義、役割・機能、編成原理と方法、それから評価に関する基本的なことからについて、歴史・思想・政策・実践という多様な視点から重層的に理解することをめざす。			
授業計画 第 1 回 教育課程概念の範囲と射程 第 2 回 教育課程の編成主体 第 3 回 教育課程編成の思想と類型①：教育課程の代表的類型 第 4 回 教育課程編成の思想と類型②：教育課程と教科間の関係 第 5 回 教育課程編成の原理と構造①：教育課程の編成原理 第 6 回 教育課程編成の原理と構造②：教育課程の構造 第 7 回 教育課程と学習指導要領①：1947 年から 1968 年までの変遷 第 8 回 教育課程と学習指導要領②：1977 年から 1989 年までの変遷 第 9 回 教育課程と学習指導要領③：1998 年から 2017 年までの変遷 第 10 回 教育課程と評価①：戦前の教育評価 第 11 回 教育課程と評価②：戦後の教育評価 第 12 回 教育課程と評価③：新たな教育評価 第 13 回 社会における教育課程：学校教育の役割をどう考えるか 第 14 回 カリキュラム・マネジメントとその実践 第 15 回 日本の学校におけるカリキュラムの実態			
テキスト プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 『よくわかる教育課程』田中耕治編、ミネルヴァ書房、2009 年（ISBN978-4-623-05144-1） 『新しい時代の教育課程（第4版）』田中耕司（ほか）著、有斐閣アルマ、2018 年（ISBN978-4-641-22107-9）			

学生に対する評価

1. レポート：60%（授業で学習した内容をテーマとする）
2. 受講態度：40%（授業で提示される課題用シート等を提出すること）

授業科目名： 道徳指導法（中等）	教員の免許状取得のための （中）必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 島恒生 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できるとともに、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）、子供の心の成長と道徳性の発達、学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容、学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴、道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。また、道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することや、授業のねらいや指導過程を明確にして道徳科の学習指導案を作成することができ、模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善の視点を身に付けている。			
授業の概要 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画、評価等を理解するとともに、実際に具体的な教材を取り上げて教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を行い、実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画 第1回 道徳の本質と道徳教育及び道徳科の目標と内容 第2回 道徳性の発達 第3回 道徳教育の歴史と課題 第4回 道徳科の時間の実際1 道徳科の授業から学ぶ 第5回 道徳科の時間の実際2 道徳科の指導過程 第6回 道徳科の時間の発問と教材 第7回 道徳科の時間の学習指導案づくり1 学習指導案の基礎・基本（学習指導案の作成） 第8回 道徳科の時間の学習指導案づくり1 学習指導案の基礎・基本（作成した学習指導案の振り返り） 第9回 道徳科の時間の学習指導案づくり2 発達の段階を考えた指導（学習指導案の作成） 第10回 道徳科の時間の学習指導案づくり2 発達の段階を考えた指導（作成した学習指導案の振り返りと模擬授業） 第11回 模擬授業の実施と授業改善の視点 第12回 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などの多様な指導法 第13回 道徳教育全体計画、年間指導計画			

第 14 回 道德教育及び道德科の評価
第 15 回 まとめ
テキスト 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』（教育出版）
参考書・参考資料等 授業の中で、その都度指示する。
学生に対する評価 課題 70%、受講態度等 30% ただし、授業での学習指導案等の課題をすべて合格すること。

授業科目名： 特別活動指導法（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 島恒生 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容、教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学級活動・ホームルーム活動の特質、生徒会活動、学校行事の特質、教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方を理解している。また、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。			
授業の概要			
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。特に、学級活動・ホームルーム活動の学習指導案の作成、生徒会活動や学校行事の計画立案・評価などは、演習を通して進める。			
授業計画			
第 1 回 特別活動の目標と内容、教育的意義及び各教科等との関連			
第 2 回 特別活動の歴史			
第 3 回 特別活動の内容 一学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事一			
第 4 回 学級・ホームルーム活動の指導と評価			
第 5 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導過程 一合意形成に向けた集団討議一			
第 6 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 1 学習指導案の要件			
第 7 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 2 学習指導案作成			
第 8 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 3 振り返り			
第 9 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導過程 一意思決定につながる集団思考一			
第 10 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導 1 学習指導案作成			
第 11 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導 2 振り返り			
第 12 回 生徒会活動の指導と評価			
第 13 回 学校行事の指導と評価			
第 14 回 特別活動を生かした学級経営と家庭・地域、関係諸機関等との連携			

第15回 まとめ
テキスト 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（東山書房） その他、授業の中で配布する。
参考書・参考資料等 授業の中で、その都度指示する。
学生に対する評価 課題70%、受講態度等30% ただし、授業での学習指導案等の課題をすべて合格すること。

授業科目名： 教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西端律子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）少子化、教育観の変化、技術の進歩など教育方法の変化の背景を理解する。 （２）教育メディアの変遷、教育の情報化、プログラミング教育の現状について理解する。 （３）総合的な学習の時間についての指導を行うことができる。			
授業の概要 本授業においては、教育方法および教育技術について、理論と演習を行う。 教育方法については、少子化、教育観の変化などの理論的基盤と背景を理解するとともに、教育の情報化に対応できる資質を獲得したい。また、児童・生徒に情報活用能力を育成するための指導法の実践を行う。さらに、総合的な学習の時間の指導内容、方法について講義を行う。			
授業計画 第 1 回 導入とオリエンテーション・教育方法と教授内容 第 2 回 適切な教育方法の選択 第 3 回 教育観の変化による教育方法の変化 第 4 回 少子化による教育方法の変化 第 5 回 さまざまな学習評価 第 6 回 教育メディアの変遷と学校放送番組の活用 第 7 回 総合的な学習の時間の成立と領域 第 8 回 総合的な学習の時間のさまざまな地域での取組 第 9 回 総合的な学習の時間の年間指導計画の作成 第 10 回 総合的な学習の時間の授業案作成 第 11 回 総合的な学習の時間と情報活用能力（情報モラル教育を含む） 第 12 回 プログラミング演習（Viscuit） 第 13 回 プログラミング演習（Scratch） 第 14 回 プログラミング作品制作 第 15 回 作品グループ内発表			
テキスト 授業中に指示する。			

参考書・参考資料等

学習指導要領（各校種）

学生に対する評価

提出物（25％）、レポート試験の評価（75％）

授業科目名： ICT 活用の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西端 律子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 個別最適な学び、協同的な学びの実現や特別な支援を必要とする児童生徒に対する活用の意義について理解する。デジタル教材の作成と利用、学習履歴、オンライン教育システムや校務支援システムなどを活用できる。各教科等において児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法を身に付ける。			
授業計画 第 1 回 情報教育と教育の情報化の歴史と現状 第 2 回 ICT 活用の理論的基盤 第 3 回 初等中等教育での ICT 活用および情報モラル教育の実践 第 4 回 各教科等における情報活用能力の育成と情報モラル教育 第 5 回 特別支援教育における ICT 活用の実際と合理的配慮 第 6 回 オンライン教育、校務支援などのクラウドサービスの活用 第 7 回 デジタル教材の作成と模擬授業 第 8 回 模擬授業の相互評価			
テキスト 特になし（授業中に指示をする）			
参考書・参考資料等 『ICT 活用の理論と実践: DX 時代の教師をめざして』 稲垣忠他 北大路出版			
学生に対する評価 各授業後の小テスト（30%）、作成するデジタル教材とそれを活用した模擬授業（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 奥田俊詞 八木義仁 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 教育課程における生徒指導の位置付けや、各教科等における生徒指導の意義や重要性を理解するとともに、集団指導・個別指導の方法原理や生徒指導と教育相談の基礎的な考え方と違いなどを理解している。			
・ 生徒指導における管理職、主任、担任等の立場や役割を理解し、学校の指導方針等に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。			
・ 自己の存在感を基盤とした生活習慣の確立や規範意識の醸成を進める指導について例示することができる。			
・ インターネットなどの今日的な課題や法令に示された不登校やいじめ等の定義や対応について理解し、個別の課題を抱える児童・生徒への対応を専門家等との連携の在り方を含めて例示することができる。			
・ 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けや、組織的な指導体制及び家庭等との連携の在り方を理解し、学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。			
・ キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義及び全体指導を行うガイダンスの機能を生かしたキャリア教育の意義や留意点を理解している。			
・ キャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができるとともに、キャリアカウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。			
授業の概要			
生徒指導と進路指導・キャリア教育について、その意義や指導方法、関連する法令等を理解し、それを踏まえた実践事例について協働的に学修する。授業は、毎時間の課題について討議し、まとめ、発表することを中心に構成する。			

授業計画

第1回 生徒指導の意義と指導の基本的な考え方（八木）

第2回 教育課程における生徒指導（八木）

第3回 集団指導と個別指導の方法原理（八木）

第4回 児童・生徒理解とその方法（八木）

第5回 学校全体での指導体制（八木）

第6回 生徒指導と教育相談（八木）

第7回 学校を安全な場所とするための指導と環境整備（八木）

第8回 学級・教科指導での生徒指導（奥田・八木）

第9回 個別問題への対応（いじめ）（奥田）

第10回 個別問題への対応（虐待）（奥田）

第11回 個別問題への対応（不登校）（奥田）

第12回 進路指導とキャリア教育の意義（奥田）

第13回 進路指導・キャリア教育の実践のしかた（奥田）

第14回 キャリア教育で育む資質能力（奥田）

第15回 キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングの具体的実践（奥田）

テキスト

『生徒指導提要』（最新版）

参考書・参考資料等

小学校キャリア教育の手引き（改訂版）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm

中学校キャリア教育の手引き https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm

高等学校キャリア教育の手引き https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm

学生に対する評価

課題70%、受講態度30%

授業科目名： 教育相談（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三好 環 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
生徒に寄り添い支援する方法を理解して身につけている。また、発達状況に即し、個々の心理的特性や課題を理解し、支援するために必要な教育相談の基礎知識を理解し、基本的な対応をすることができる。			
授業の概要			
教育相談は、生徒が自己実現に向かい、学校生活の中で集団に適応し、自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら問題解決する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援するための教育活動である。受講生が、一人一人の生徒の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、個人の発するシグナルに気づき把握する方法を理解し、個人的な悩みを受容し傾聴して共感的に理解し、困難を解決できるよう支援し人格の成長を支える力をつけるため、以下の内容で授業を展開する。①教育相談の意義と理論の理解 ②教育相談に必要な基礎知識の理解 ③教育相談の進め方や教育相談体制・連携についての理解 ④紙上ロールプレイ ⑤心情の理解など。			
授業計画			
第1回 学校における教育相談の意義と課題			
第2回 教育相談体制および地域の医療・福祉専門機関との連携			
第3回 教育相談の目標と進め方			
第4回 カウンセリングの基本（理論・姿勢・技法）			
第5回 生徒理解とカウンセリングマインド			
第6回 青年期の発達の理解			
第7回 不適応とアセスメント 臨床心理学的理解			
第8回 不登校の理解と対応			
第9回 いじめの理解と対応			
第10回 非行の理解と対応			
第11回 発達障害の理解と対応			
第12回 学級経営に生かす教育相談			
第13回 保護者への教育相談			
第14回 対人関係の問題と心理教育			
第15回 まとめ			
テキスト			
森田健宏・吉田佐治子編著 『教育相談』 ミネルヴァ書房 ISBN:9784623081783			

参考書・参考資料等

授業で紹介する。

学生に対する評価

定期試験 60%、提出物（ミニレポート、復習チェック）40%で評価する。

提出物については後の授業時に説明し、定期試験については CEAS で所見を配信する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		担当教員名：横 弥直浩、椎名 美穂子	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 当該教職課程の科目担当教員が協力して行う。					
授業のテーマ及び到達目標 教員の使命や職務についての理解を確かなものとするために、教育現場における社会性や対人関係能力の重要さの理解、職務を遂行する力の基礎を培うこと、生徒の特質や心身の状況と学級経営等について理解できるようにする。また、数学の教科内容の理解を深め、学習指導案の作成や授業スキルの習得、ICTの効果的な活用方法、基本的な指導力に関する事項を身に付け、これらを通して、教員としての基本的な資質能力を確かなものとする。					
授業の概要 教員としての基本的な資質能力を確かなものとするために、履修カルテを活用して学校教員の教育活動に関する演習を中心とする。また、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、児童生徒理解や学級経営等に関する事項、主に数学科授業における指導力に関する事項について、学校見学と演習、模擬授業と協議、ICTを活用した授業構成の検討等を通して、4 年次前期までに培った資質能力の統合・補充、充実を図る。					
授業計画 第1回 イントロダクション・これまでの学修の振り返り、自己資質能力の分析と課題の確認 第2回 教職の意義、教員の役割、職務等について 第3回 学校現場の現状と課題（現場教員から学ぶ） 第4回 教員に求められる対人関係能力、教職員・保護者・地域との連携（P T A・保護者から学ぶ） 第5回 児童生徒理解や学級経営・生徒指導に関する事例研究とグループ討議 第6回 中学校数学科における基礎・基本と指導力 第7回 数学の理解と指導力の伸長に向けてⅠ（確率・統計分野） 第8回 数学の理解と指導力の伸長に向けてⅡ（幾何分野） 第9回 数学の理解と指導力の伸長に向けてⅢ（代数分野） 第10回 数学の理解と指導力の伸長に向けてⅣ（関数分野） 第11回 模擬授業と検討会Ⅰ（確率・統計分野、幾何分野） 第12回 模擬授業と検討会Ⅱ（代数分野、関数分野） 第13回 I C T の効果的な活用による授業改善と課題の検討 第14回 学校における危機管理（教育委員会関係者から学ぶ） 第15回 総括、資質能力の確認					
テキスト 必要に応じて授業で資料を、適宜配布する。					
参考書・参考資料等					

必要に応じて授業で資料を，適宜配布する。

学生に対する評価

- ・ 課題70%
- ・ 受講度30%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。